

アムスルだより

No. 9 1994年 9月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

TEL:098-987-2304

FAX:098-987-2875



台風とサンゴ

阿嘉島では5、6月のミドリイシサンゴに引き続き、8月27、28日にはキクメイシサンゴ類の一斉産卵が見られました。8月21日の満月からかなり遅れましたが、満月の頃通過した台風の影響かどうかはわかりません。今年の台風は慶良間を直撃していますが、八重山地方は記録的な強風にみまわれ、大きな被害が出ています。今の時季、台風の動きには目が離せませんね。ということで今回は台風とサンゴについてお話します。

私たちの住む琉球列島をはじめ、熱帯・亜熱帯の多くの島々はサンゴ礁に取り囲まれており、台風などによる大波から島を守ってくれる天然の防波堤になっています。このサンゴ礁はどのようにしてできたのでしょうか。サンゴ礁を形成するイシサンゴは、体内にいる共生藻の光合成産物を主な栄養源としているため、光の届く浅い海にしか生息できません。そのため、島の周囲の浅い海はサンゴにとって大切な生

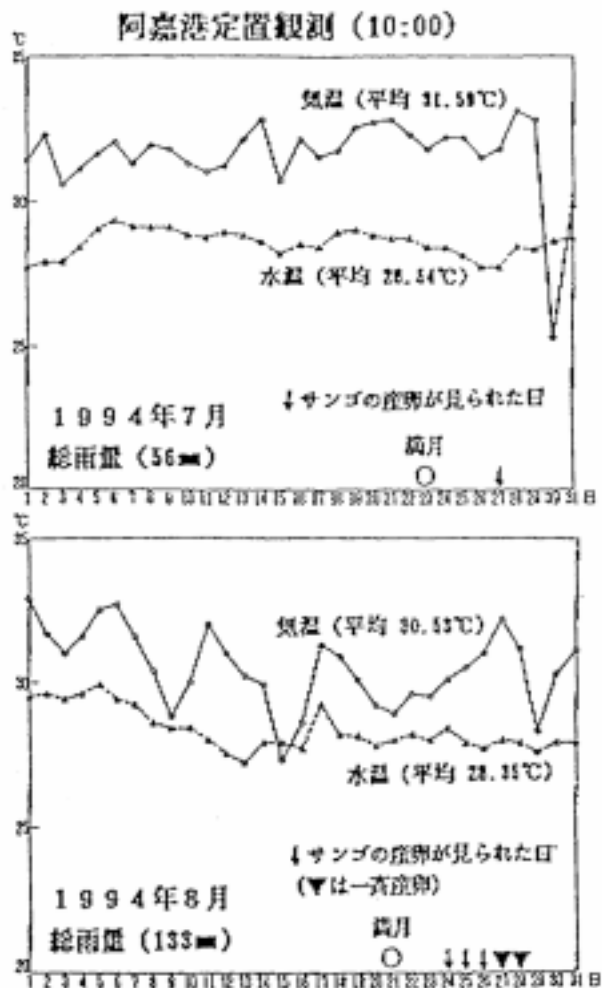
息場所です。まず最初に、島の周囲にサンゴの幼生が着床して育ち、長い年月をかけて成長と死亡を繰り返しながら、骨格の堆積によって浅い礁池(イノー)を沖に向かって広げているのです。サンゴは同じ種類でもその生息環境によって形状が変わってきます。例えば、波の穏やかな内湾や深い場所のサンゴは骨格が細くてもろく、テーブルサンゴは直径が2m以上に広がることもあります。これに対して、波当たりの強い場所のサンゴの骨格は頑丈になり、枝サンゴは太くて短く、テーブルサンゴは屋根がわらのように岩に密着した形になります。強い波がまともにぶつかるサンゴ礁の縁に生えた頑丈なサンゴは、波の力を分散させながらしっかり受けとめ、内側に生えた繊細な枝サンゴが、イノーの中に入った波を徐々に弱めていきます。また阿嘉島のクシバルなど外洋に面した波当たりの強い場所のサンゴ礁ほど、根(縁脚)と谷(縁溝)が交互に沖に向かって伸びる構造が発達しており、イノーの中に入った波はこの縁溝をとって外に出ていきます。このようにして、イノーは強い波から守られているのです。そして、このイノーは魚のわく豊かな海を私たちにもたらしてくれます。

ふだん穏やかな場所のサンゴは骨格がもろいため、台風の直撃によって大きく破壊されてしまいます。阿嘉島のニシハマは穏やかな海で、大きなテーブルサンゴや枝サンゴの群落が発達していましたが、1991年の台風の直撃によりその多くが破壊されてしまいました。しかし、これでサンゴが死んでしまったわけではありません。バラバラに壊されて海底に転がっているサンゴの破片もちゃんと生きており、また成長して新しいサンゴ群体を造っています。上下が逆さまになったテーブルサンゴも、今まで裏側だったところが表になって成長しています。島の周囲を取り囲むサンゴ礁はこのような破壊と成長を繰り返し、何万年もの長い年月をかけて築かれてきたのです。

ここ数年、台風で破壊されて弱ったサンゴにシロレイシガイダマシという巻き貝が取り付き、サンゴを食べているのが目につきます。しかしサンゴにとって住み良い環境が保たれている限り、生き残ったサンゴが元気に成長して、サンゴ礁を形成していきます。こうした自然のバランスを壊さないようにしたいものです。

阿嘉島の海より -ウミガメとヘビ-

7月12日に阿嘉小中学校でマリンスクールを開催し、一年間研究所で育てたウミガメに標識を付け、子供たちといっしょに海に放してあげました。今頃どうしていることでしょうか。また8月5日には阿嘉島のクシバルの浜でタイマイの赤ちゃんが卵から孵化しま



した。タイマイはウミガメのなかでも甲羅がきれいで、古くからべっこう細工に利用されてきましたが、今では絶滅に瀕しています。タイマイの産卵は沖縄本島が北限にあたり、阿嘉島で孵化が確認されたのは初めてです。今そのうち4匹を研究所で飼育しています。

ウミガメの卵は、天敵に襲われるのを避けるため夜に孵化します。しかし夜行性の動物がこれを狙っています。屋嘉比島での調査では、アカマタというヘビが砂の中に頭をつっこみ、ウミガメの卵や生まれたばかりの仔ガメを食べているのが観察されました。

11月10日発行予定の次号では、慶良間のヘビについてお話ししましょう。